



俚語正調

前島

曉舟撰

次々新人登場仲々賑やかになつてまいりました、尙ほ誰も相當なものが来て来ました、やつぱり掘らねば黄金はでぬものです。二回目なれ共今回のき榮えを御覽下さい、初回とは格段の差進にお氣づきてせう、前一主がやくざを明日からやめりやさては世帯を何處で持つ

胃頭「主」がてた處に早くもこの歌の眞價を見透かされ

一主がやくざを明日からやめりやさては世帯を何處で持つ

頂きます

原歌の氣分を没んだつりして、歌の心地ではなかつた

その人を「やくざ」と呼ん

した、可憐でござる、それか

なら前達の無賴の徒に屬する

人物ならば、共に世帯する

ことは熱慮再考すべきで

い感じにお氣付けてせう

い感じにして、申しまして

お氣付けて、歌の風のみか

せん、悪業非行描寫して

お有りとすれば、前述の

事々曲解なさらん様がい

ます、只着想した時から

だけ實に即した事に

思ひいたし後に構想表現

したし、その反省を促す文

字事蹟として夕日に立しは穏たれ穂の赤々と

飛揚

青雲目さして渡伯はしたが今日のたつきよ我が妻

細井 真念

日本よいと心優に富士に光る園生に花蒸る

森羅象怒哀懸總てを寫

丁度頃仲人たてで結ぶ二人をえらぶ

仕立おろしの被服をて轉ふよいぞ入学日

影者よと云はる身にも情説たした夢もある

志水

旅の歌の日は暮れ果て草の葉に小夜時雨

沖にかかる船を野風呂で流し子等と露蓋て夕涼み

ねぐらもとめて空飛く鳥に忙日暮れの村はずれ

春景

薄月夜と置いた處にこの歌の成功があつたのです、この歌に

い感じにお氣付けて、歌の風になつて行くのです、搖れる浦

波がされても月の運行は一分のあやまもなく續け

て居ります、月に上潮これが又配置よろしきを得満月

に云いど妻が笑つてだす

火酒

有る譯です、もつと情味の

なしに難かしく口白すが

い感じで、申しまして

おはら濱眼

伊藤久男

音葉あき子

霧島昇

二葉あき子

聖市

カーラス・カストロ

カーラス・オース

バグロ街五八五

色々御最重に預

つて居ります

勉なる日本人コ

ロニアの皆様當

店はより以上皆

如何なるマルカ

クワリダーデの

品で在庫品豊

富く用刺繡

其の他各用

種用其の他各用

に應じておりま

る値段で御用命

に應じておりま

</

同胞の人類愛に訴えて 救え！飢餓線上の北伯住民 悲惨を極める現地の實狀

七邦字紙協力して救援運動に乗出す

現状を示す

咲く花の類人

「北伯は眞に非やりたい」

「傍直は許されず」

九三二年の大旱魃により要刻をめつたる北伯八百の十月間に及ぶ大旱魃に、北伯八百万住民は一握り力を頼り、滴り水も飲まねんとする大嵐の食糧や

医療費と化し、その余りにも窮屈園に現れる人々は日に漸増するという空前絶後の痛ましい現状である。今や北伯の大旱魃は、人道的にも象伯の大問題となり、飢餓線上にさよう悲惨な北伯住民を

も痛ましい現

実の前に一切

を相撲挑し

て明るな救援運動に乗じたのである。

北伯の國体よ！ 全伯の日本人會、男女青年會の諸國體よ！ 頗ばくは崇高なる人類愛の旗幟を高々と揚げ、七邦字紙の唱導する救援運動に、全力投げて協力の實を致せん事を切に希望してやまない。

藤倉五郎、内藤手前十一時、藤倉手

日本庭球の代表

手の歓迎會が、

明十四日在外事

限丸、藤倉兩選手の歓迎會が、

日本古樂舞踊會

手の歓迎會が、

明十四日在外事

限丸、藤倉兩選手の歓迎會が、

日本古樂舞踊會

手の歓迎會が、

日本古樂舞踊

